# 第2回福井CSTシンポジウムのご案内 ~サイエンス教育の充実とその支援~

■日 時:2013 年2 月16 日(土) 13:10 ~ 18:00 受付12:30~ (開始時刻を少し早めました)

13:10 13:25 14:10 16:20 15:10 18:00 19:20 休 事業関連 | 休 | 休 情報 ポスター・ 閉会 開会式 講演 口頭発表 憩 | 憩 | ワークショップ 憩 交換会 報告 式

講演 「全国学力・学習状況調査から見えてくること」

福井大学教育地域科学部附属教育実践総合センター 准教授 岸俊行 先生

■会 場:福井大学文京キャンパス 総合研究棟 I 13階(福井市文京 3-9-1)

## ■研究発表のお申し込み

1) 締 切: 2013 年1月18 日(金)

2) 発表者: CST, CST養成プログラム受講者, CST事業関係者およびCST事業に関心のある方

3) 発表内容: CSTに関連すること(養成・教材開発・実践・研修・プログラム・活動など)

4) 発表形式:口頭発表(6件程度),ポスター発表またはワークショップ形式 (注)発表件数により、口頭からポスター発表への変更をお願いする場合があります。

5) 発表時間:口頭発表の場合,15分(発表12分,質疑応答3分,交代を含む) ポスター発表またはワークショップの場合,60分 (希望者には、可能な範囲で長机・椅子・電源等準備いたします)

6) 準備できる機器:液晶プロジェクター(口頭発表の場合)

7) 申込方法:官製葉書又はE-mail で、発表題目、発表形式、氏名、所属とその所在地、連絡先住所、電話/FAX 番号、E-mail アドレス、情報交換会の出欠、および使用する機器を記入して下記にお申し込みください。なお、共同研究者についても氏名と所属を記入してください。

8) 要旨原稿: A4 判 縦, 横書 (様式は福井CSTのHPよりダウンロードして下さい。)  $1\sim2$  枚

9) 原稿提出締切: **2013年1月25日(金)必着**。可能な限り、メール添付で提出願います。 Pdf形式での原稿提出を推奨しますが、Word, 一太郎でもかまいません。

#### ■参加のお申し込み

1) 締 切: 2013 年1月25日(金)

2) 申込方法: E-mail で,氏名,所属とその所在地,連絡先住所,電話/FAX 番号, E-mail アドレス,情報交換会の出欠を記入して下記にお申し込みください。

#### ■会費

1)シンポジウム参加費:無料

2) 情報交換会参加費:4,000円(当日、集金します。事前申込をお願いします。)

## ■申込先および連絡先

〒910-8507 福井市文京 3-9-1

福井大学教育地域科学部 CST企画運営事務局 宛

Tel&Fax: 0776-27-8687 (淺原) または 0776-27-9928 (CST企画運営事務局)

E-mail: cstfukui@f-edu.u-fukui.ac.jp

# 中学校教員のCST活動 題名は16ポイント、ボールド

単元「物のとけ方」での教材開発と実験講習会 副題は14ポイント使用

〇越前太郎  $^{A}$ , 福井次郎  $^{B}$ , 小浜花子  $^{C}$  氏名・所属は10.5ポイント使用。 FUKUI Taro, ECHIZEN Jiro, OBAMA Hanako 越前中学校 A, 福井大学大学院 B, 日本海小学校 C

【キーワード】 理科授業、粒子概念、教材研究、小中連携 5語以内 標題と本文は1行開ける。本文は、2段組とする。余白を上下30ミリ、左右25ミリとする。

#### 1 目 的

小学校5年単元「物のとけ方」における理科 ては、操作性が向上し、・・・。 学習は,・・・。

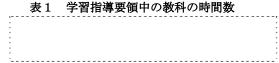
(本文は10.5ポイント活字。1行当たりの 語数と行数は、著者で決めて良い。)

鯖江(2011)は・・・・と指摘している<sup>1)</sup>。

# 2 方法

#### (1) 教材研究

粒子領域における教材研究を行った。授業時 間数は表1に示す。



1) 教材開発の背景

これまでの実践および先行研究から以下の 教材が利用されたり、提案されたりしている。

- $\bigcirc$ 教科書では、・・・。
- $\bigcirc$   $\triangle$ 勝山らは、・・・。
- 2) 教材開発の考え方 以上の調査と
- (2) 実験方法

実験の過程は・・・・・・。

#### (3) 実験講習会の実施

平成 24 年〇月に、地域支援拠点(小学校) で・・・・・。

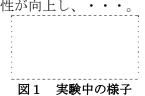
#### 3 結 果

以上の結果は~~であった。

. . . .

↓ 下の余白は30ミリをとる。

実験・観察中の様子を図1に示す。児童にとっ



これらの結果を整理すると表2のようであ る。

## 表 2 新教材と従来教材の比較

## 4 考察

単元「物の溶け方」における理科学習は、中学2 年生での原子・分子の学習に繋げる単元の一つ であり、・・・・。

附属学校園 (2011) は、・・・・・と述べ  $TV(3^2)$ 

#### 5 まとめ

本研究では・・・・・・のことが明らか になった。

## 参考文献

- 1) 越前次郎『小学校における粒子領域の学習 展開』北陸出版 (2011)。
- 2) 附属学校園「粒子分野における新教材の開 発1,理科教材研究, Vol.1, No.2, pp. 34-56  $(2011)_{\circ}$

要旨は、1または2ページで作成のこと